

終戦から67年 癒えぬ戦争の傷



たなべ まさる
田辺 勝さん

■プロフィール
大正9年3月19日生まれ。92歳。
農家の3人兄妹の次男として、峰田に生まれる。
上原町在住。

21歳で入隊

田辺勝さんのもとに召集令状が届いたのは昭和16年、21歳のときだった。20歳で徴兵検査を受け、このときが来ることは知っていた。昭和12年に始まった日中戦争の真只中。当時、国から召集令状が届いた者は、まさに大きな職が立ち、たすきを掛けられ「バンザイ！バンザイ！」とおめでとうございませう」と戦地へ送り出された。だが、田辺さんのときは、ひっそりと召集されたという。本来、徴兵検査で甲種合



入隊当時の田辺さん

格した者に真つ先に召集がかかる。しかし、身体が細かった田辺さんは乙種。「元気がない者を召集しなければならぬ」と戦況が伝わっていたからではないか」と当時を思い起こす。

太平洋戦争勃発

田辺さんは、昭和16年7月14日、松江市にある西部第64部隊曾田隊に入隊し、ここで3カ月間身体鍛錬を行った後、広島にある通信隊に転属。米国の植民地だったフィリピン進攻の支援隊として11月18日に宇品港を出港し、經由地の台湾にいた12月8日、日本が英国・米国へ宣戦布告し太平洋戦争が開戦した。

激しい戦闘 小銃弾が身体を貫通

昭和17年1月1日、マニラの警備に向かうためルソン島リンガエン湾に上陸したが、戦況が悪くとバターン半島攻略に切り替えられた。到着したのが1月9日、現地での交戦はすさまじかった。田辺さんは戦いの第一線に出て、そこでの戦況を通信機器で後方部隊へ知らせる役割を担った。しかし、敵陣までの距離がとて近く「小銃弾や大砲の弾が雨あられのように乱れ飛んできた」という。



療養中の田辺さん

2日後の11日だった。あまりの砲撃で耐えられないと判断し、塹壕(地面を掘って作った壕)を掘ろうとしたが、地面が硬すぎて断念。その矢先、移動しようとした瞬間に銃弾を受けその場に倒れ込んだ。弾は骨盤部の右側から左側にかけて貫通し、神経がやられたのか、足がピンと突っ張って伸びたまま動けなくなった。他の隊員は散り、一人取り残された田辺さんは、近付いてくる物音に「もうだめだ」と覚悟したという。しかし、それは日本の看護兵だった。背負われたまま後方に下がるとそこにも数人の負傷兵がいた。なんとかそこから敵に見つからないところまで後方に下がったが、手負いのため移動できず援軍を待った。丸2日何も食はず、痛みを耐えしのいだ。

負傷が命をつないだ

「あの負傷がなかったら自分は間違いないと死んでいた」と首を振る。とにかくバターン半島は大変な激戦で、5

6班に分かれていた所属部隊はほとんど全滅した。生き残った者もマラリアにかかり亡くなった。そのことは日本にも伝わり「田辺は戦死した」といううわさが流れたという。
負傷後は、現地にある病院を転院しながら、傷の回復を待った。銃弾は、運良く骨や膀胱、腸などを避けて通っていたため、致命傷ではなかった。だが、足が回復しなかったため戦場に戻ることなく昭和18年9月30日に帰郷。同

隊から田辺さん以外に帰郷できたものはおらず「負傷したことで逆に生き延びられた」と声を震わせる。戦地から生きて帰ってくることは恥、故郷に帰れたことを喜べないそれが当時の日本だった。

自分の中の戦争は 終わっていない

サンフェルナンドの病院に収容されて

語らぬ語り部

作 田辺 勝



運命(さだめ)と云えば
それまでで
若木の花は 咲かぬまま
戦友(とも)を思えば
この傷(きず)は、
耐えて来(こ)ました 五十年
二人で一人の 夢(ゆめ)を追い
妻(つま)が支(た)える 傷(きず)痕(あと)の痕(あと)
傷痕(きずあと)撫(な)でる その度に
身の毛(け)もよだつ 負(お)けい(く)き
弾(たま)に砕(くだ)れて 流(なが)れる血潮(ちまう)
話(わ)したくない 語(か)れない

今(いま)なおうずいて 憂(うれ)きこと
胸(むね)におさめて 生(な)きて行く
あれほど惨(むご)しい
虐殺(せんそう)は
誰(たれ)に言(い)えよう 口(くち)に出(で)ぬ
たとえ言(い)っても 自慢(こゝろ)の話(わたり)
ほかに甘(あま)い しかみえぬ
語(か)らぬままの 語(か)り部(ぶ)で
俺(おれ)の戦(いくさ)後は まだつづく

(戦後50年に綴った詩)

戦争は二度とあっては ならない

戦地から帰った傷痍軍人が庄原にも多くいたが、現在は数えるほどしかない。その人たちは戦争体験を語ることはあまりない。「戦争の話の後世に伝えるというのには必要とは思わぬ。しかし、原爆もそうだが、思い出しとないのが正直なところ」と表情を曇らせる。

「戦争当時のことを思うと、今は天地の差。幸せなことよ」と語る田辺さん。「二度と戦争があつてはならない」。ひ孫を見るたびに、強く思い願っている。

平成24年度 庄原市戦没者追悼式 並びに平和祈念式典

本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式ならびに平和祈念式典を開催します。

多くの皆さんの参加をお願いします。

とき 8月22日(水)10時
ところ 庄原市民会館

当日は要約筆記による案内に加え、イントラネットでの中継も行いますので、各学校、自治振興センター(公民館)などでもご覧いただけます。

各支所からの送迎バスをご用意しています。利用希望の場合は、8月17日(金)までに各支所市民生活室に申し込んでください。(定員に限りがありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください。)

問い合わせ
社会福祉課障害者福祉係
☎0824-73-1210